

農業

管内は、国内生産頭数の約80% (H28:5,453頭)を占める全国一の軽種馬生産をはじめ、稲作、施設園芸や酪農、肉用牛などが行われています。

近年、中央・地方競馬の売上げや市場での取引価格は回復傾向にあるものの、生産頭数、飼養農家戸数は減少傾向にあります。

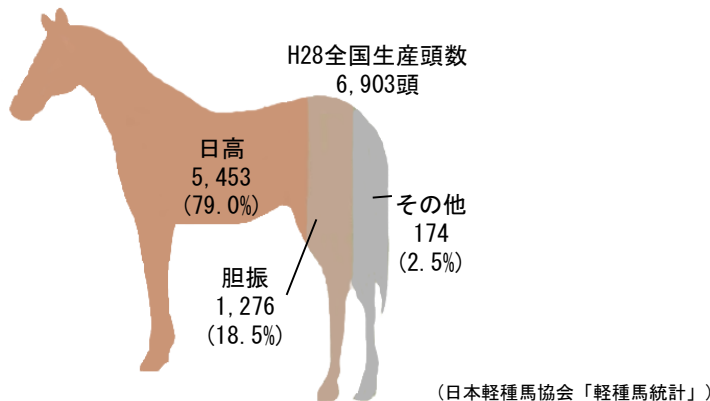
このため、軽種馬農家の経営体質の強化、生産育成技術の向上などによる強い馬づくりや、管内の気象・自然条件を活かした野菜・花きなどの導入や農業経営の複合化などを進めています。

全道一の生産を誇るトマトは、平取町を中心に栽培され、平成28年の販売額は約40億円になっています。



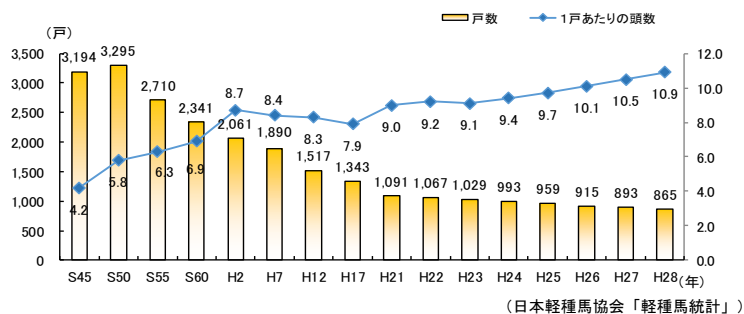
牧場風景(新ひだか町)

■軽種馬生産の地域別構成



トマトの生産(平取町)

■繁殖牝馬飼養戸数・1戸当たりの繁殖牝馬飼養頭数(全国)



花きの品評会(新ひだか町)

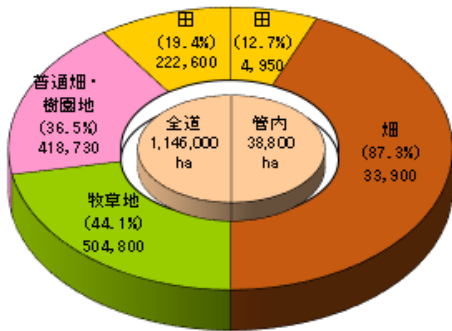
● 軽種馬生産者が肉用牛(黒毛和種)の導入にチャレンジ!

日高といえば軽種馬ですが、平成14年頃から、軽種馬生産者が黒毛和種の導入にチャレンジしています。馬の飼養技術や既存の放牧地、施設を最大限に活かし、優良な肉用牛を育てており、市場の評価も上々です。近年の価格高騰の影響もあり、軽種馬経営の安定に寄与しています。顧客の期待に応えられる高品質な素牛を生産・出荷できるよう、生産者は日々の努力を続けています。



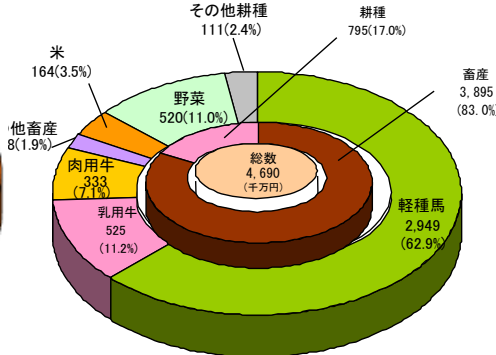
黒毛和種の育成(浦河町)

■ 耕地面積 (平成28年)



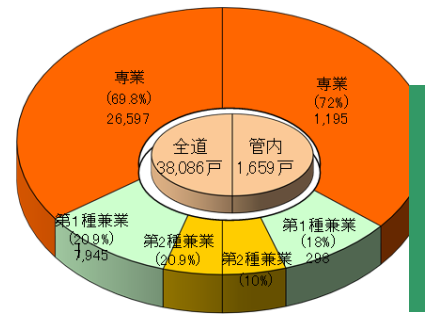
(作物統計調査・自給飼料生産利用状況調査)

■ 農業産出額の構成比 (平成18年概算)



(生産農業所得統計調査)

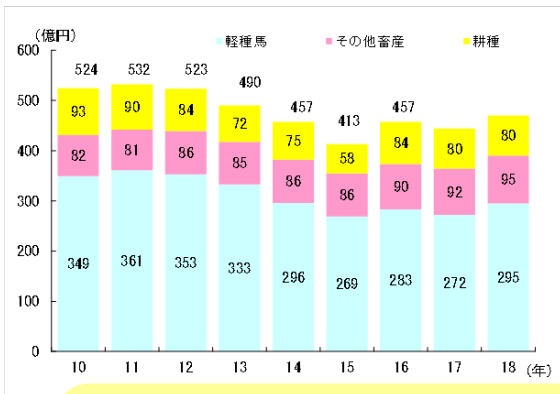
■ 専業兼業別販売農家戸数 (平成27年2月1日現在)



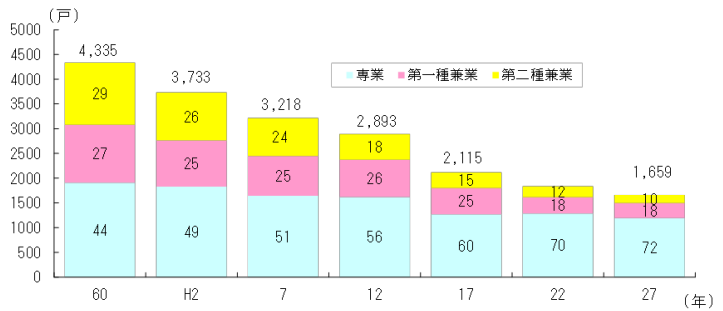
(2015 農林業センサス)

ひだかの産業

■ 農業産出額の推移



■ 総農家戸数の推移 (平成12年以降については販売農家)



馬産地としての日高 ～日高はサラブレッドのふるさと～

全国一の馬産地「日高」はサラブレッドのふるさと

雄大な日高山脈を有し、眼前には太平洋を望む豊かな自然に恵まれた日高は、ゆったりと草をはむ馬たちの姿や優駿が駆けめぐる牧場風景が随所に見られます。

1年間に誕生する競走馬の約8割に当たる約5,400頭が日高で誕生し、中央競馬をはじめとして歴史的に名を残した多くの名馬を世に送り出しています。

迫力ある競馬を間近で観戦できる日本唯一の馬産地競馬場

門別競馬場は、地方競馬の中でも大井競馬場に並ぶ最大規模のコースを誇り、外回り・内回り走路とLEDナイター照明による多彩な競走体系が魅力の、「ホッカイドウ競馬グランシャリオナイター」が開催されています。また、平成28年には映像をHD化し、高画質なレース映像の提供が可能となりました。

4月下旬から11月上旬まで開催されるグランシャリオナイターでは、迫力あるレースが観戦でき、周囲の牧場風景とともに、サラブレッドの魅力、ロマンのスポーツを楽しむことができます。



門別競馬場(日高町)

軽種馬の多様な市場取引

軽種馬の売買は、様々な市場でセリによって取引されます。

1歳馬は7月から10月にかけて、東洋一の規模を誇る北海道市場(新ひだか町)でセリにかけられ、購買者はステージ上の馬を見ながら価格を競り合い、最高値をつけた人が落札します。

トレーニングセールでは、即戦力になる馬を確実に選べるよう、調教された2歳馬がレースさながらの走りを披露し、そのタイム等を参考にセリで取引されます。



北海道市場(新ひだか町)